令和７年度　学校評価を掲載いたします

次年度以降の学校運営に生かしてまいります。ご協力ありがとうございました。また、学校ホームページにも掲載しておりますのでご覧ください。

令和７年度　青梅市立第一小学校　第２回学校評価シート

令和８年２月

＜学校経営方針の重点＞
1　確かな学力の育成　　2　豊かな心の育成　　3　健康な体の育成　　4　家庭・地域等との連携

〈評価基準〉　Ａ：達成できている　　Ｂ：ほぼ達成できている　　Ｃ：あまり達成できていない　　Ｄ：達成できていない

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価（%）	児童	保護者	教職員	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄 評価	学校関係者評価記入欄 コメント	今後の方向性
確かな学力の育成	自ら進んで学習に取り組む子の育成	確かな学力を身に付けさせる教育の推進	生きて働く「知識・技能」を習得するため、各教科の基礎的・基本的知識及び技能を身に付け、思考力、判断力、表現力を育み、主体的に課題を解決する学習態度を養う。	A	45%	26%	19%	・A.B合わせて80%を超えていた。知識及び技能は概ね身に付いているが、思考力、判断力、表現力に関しては課題が見られた。 ・教職員の中ではAの評価は低く、B評価が多いことから習熟できているとは言い難い。	・個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るために、より児童の課題にあった問題や課題を選んだり、選択させたりしていく。 ・学年や実態に応じた家庭学習の計画を行い、学習習慣を身に付けさせていく。	B	児童一人一人にあった課題を見付け、個に応じた授業を展開してほしい。自宅学習では、与えられた課題に取り組むだけで主体的な学習態度は見られない。	これからも知識及び技能、思考力、判断力、表現力、主体的に学習に取り組む態度をバランスよく養っていく。そのために個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、授業改善を行なっていく。また、家庭とも連携しながら日々の学習習慣も付けていけるよう努める。
				B	49%	61%	62%					
				C	5%	10%	19%					
				D	1%	0%	0%					
				E	0%	3%	0%					
				平均								
			貯本通帳やチャレンジ読書を日常的な活動に位置づけ、本に親しむ活動を通して豊かな心を育む。学校図書館司書、図書ボランティアとの連携を通して、読書活動の充実を図る。	A	48%	29%	13%	・読書活動を通じて、本に親しむ子は年々増加傾向にあり、取組自体も好意的に受け止められている。しかし、読書時間の確保や、初見の文章を読み取る力の育成には依然として課題が見られた。 ・教職員や保護者と児童の評価にやや差があり、特に教職員の間では読書活動の定着度に慎重な見方がみられる。	・読書週間や図書の時間の設定などを継続し、全学年で統一的・計画的に基礎学習および読書活動を進めていく。 ・学年ごとの実態に合わせて読み取りスキルを整理し、系統的な指導を充実させていく。	B	児童が図書館をよく利用し、本を借りる姿も多く見られる。一方、動画視聴の影響などから、本格的な読書に取り組む児童は一部に限られているように感じる。 計画的な読書指導が効果的で、子供たちが読書の楽しさや多様な分野の本と出会える工夫が今後も求められる。	今後も読書週間や読書の時間を活用し、全学年ですすんで読書活動に取り組めるように努めていく。学年ごとの実態や発達段階に応じて読み取りスキルの指導を工夫し、児童がさまざまなジャンルの本に親しめる環境づくりに努めていく。
				B	40%	50%	74%					
				C	10%	15%	13%					
				D	2%	3%	0%					
				E	0%	3%	0%					
				平均								
			ICTを効果的に活用し、個別最適化された学びの実現に取り組む。GIGAスクール構想の効果的な活用をめざし、教材の開発や指導法の向上を図るとともに、情報モラルやリテラシーも指導していく。	A	73%	39%	19%	・タブレットなどICT機器の活用により、児童は学習への意欲が高まっている。一方、使い方のルールが守れない児童も一定数見られた。 ・教職員の評価は児童に比べて慎重であり、効果的な指導法や活用方法について、さらなる研究や工夫が必要である。	・セキュリティや機器の管理については、学校全体で情報共有や指導を徹底し、家庭とも協力しながらルールの周知を進めていく。 ・端末活用のスキル向上や情報モラル指導についても継続し、関係機関と連携しながら、児童の安全で効果的なICTの活用を図っていく。	B	ICT機器を活用した学習は児童の意欲向上にもつながっているように感じる。一方で、利用時間やルール順守への配慮、各児童のスキル格差、家庭との連携の難しさなど課題も見受けられる。また、ICT活用による能力の変化について今後も検証が必要だと思われる。	引き続き学校全体で情報共有や指導を行い、児童が安心してICT機器を活用できるように努めていく。家庭との協力体制を工夫しながらルールの周知徹底を図る。情報モラルやスキル向上にも配慮していく。今後はICT活用による学びの変化についても実態を把握し、より良い活用方法を模索していく。
				B	21%	44%	69%					
				C	5%	7%	12%					
				D	1%	0%	0%					
				E	0%	10%	0%					
				平均								
豊かな心の育成	明るく素直で、思いやりのある子の育成	豊かな心をはぐくむ教育の推進	いじめの根絶や様々な障害への理解を図り、あらゆる偏見や差別をなくすとともに、豊かな人間関係の構築に不可欠なルールやマナーを身に付けさせる。	A	59%	17%	38%	・いじめ根絶に向けてスローガン等により学校全体で意識啓発を図り、教員間で迅速な情報共有と対応も進めたことで、教職員の評価が高くなった。 ・スローガンが一時的な取組で終わらないよう継続的な意識付けが必要である。また、児童の言葉遣いにも課題が見られる。	・スローガン活用などを通じて継続的にいじめ防止や人権意識向上の取組を計画的に推進していく。 ・全校集会や生活指導を通じて全児童への講話や言葉遣い指導を強化し、教員間やSCとの連携による迅速かつ組織的な対応を徹底する。	B	いじめの恐ろしさや命の大切さを継続的に指導してほしい。児童と教師の良好なコミュニケーションのもと、差別と区別の理解や言葉・態度への配慮を育て、学校・家庭・地域で連携した指導が大切だと感じた。	いじめは決して許されない行為であることや命の大切さについて、今後も継続的に指導していく。児童一人一人との丁寧な関わりを大切にしながら、相手の気持ちを考えた言動ができるよう指導し、家庭や地域とも連携していじめの未然防止に努めていく。
				B	34%	46%	56%					
				C	6%	17%	6%					
				D	1%	6%	0%					
				E	0%	15%	0%					
				平均								
			「特別の教科道徳」の全体計画や年間指導計画（別葉）に基づいた指導を徹底し、他者と共によく生きるための基盤となる道徳性を養う。	A	54%	35%	31%	・道徳の授業では、児童が内容を自分事として捉え、具体的に考えられるよう工夫を重ねている。 ・一方で、人権意識や自己肯定感のさらなる向上、職員の意識改革や道徳授業に関する0JTの充実も課題として挙げられた。	・児童が自他を大切にし、より豊かな心を育むために、道徳授業の具体的な場面の設定や振り返り活動を充実させる。 ・教職員研修や0JTを充実させ、全教職員が共通理解をもって指導に取り組む体制を強化していく。	B	道徳の授業は児童の心の成長につながっているように感じる。自分や他者を大切にする姿勢や、善悪をしっかりと判断できる力を育てる指導、そして子供たちが成功体験を積める工夫が今後も期待される。	今後も道徳の授業で、具体的な場面設定や振り返り活動を充実させ、児童が自分や他者を大切にできる心を養えるよう努めていく。さらに、教職員間で指導への共通理解を深め、豊かな心の育成に向けた取り組みを継続していく。
				B	38%	47%	69%					
				C	7%	7%	0%					
				D	1%	3%	0%					
				E	0%	8%	0%					
				平均								
			たてわり班活動や、異年齢集団での学びなどを通して、「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認める」態度を育む。	A	55%	53%	31%	・クラブ、委員会は高学年の児童がより主体的に活動できるような仕組みを作っていく。 ・キャリアパスポートを活用し、各クラブ活動、委員会活動での年間目標、それを達成するための個人目標、１～３学期の振り返りを記入してはどうか。 ・縦割り班活動が始まってから芝刈りを始めるのではなく、５月くらいから、兄弟学級ごとに芝刈りを回していくのはどうか。	・クラブ・委員会ともに、高学年児童が担当の教員に事前に計画を示し、その計画を校内に掲示するスペース等を設け、より主体的・計画的に運営できるようにする。 ・キャリアパスポートを活用し、学期ごとに振り返っていく。 ・クラス清掃の水曜日に各クラスに割り振り、確実に実施できるようにする。	A	児童の人数が少ない地域という特徴を生かして、子供同士の繋がりを大切にしていってほしい。学校の縦割り班活動のおかげで、子供会や登校時に挨拶をしたり、小さい子の面倒を見たりしている姿が見られている。	たてわり班活動を今後も充実させていく。芝刈り活動は、回数確保のため、クラスで実施する。･クラブと委員会は高学年の児童がより自主的、計画的に活動できる環境を整えていく。･キャリアパスポートを活用し、学期ごとに振り返りをしていく。
				B	37%	43%	69%					
				C	6%	0%	0%					
				D	2%	0%	0%					
				E	0%	4%	0%					
				平均								
健康な体の育成	楽しく運動をし、身体をきたえる子の育成	健康・安全教育の推進と体力の向上を図る教育の推進	生涯を通じて健康な生活を送るために、自己の心身の特徴を知るとともに、自主的・実践的な健康づくりを促進するための健康教育を推進する。	A	54%	42%	19%	・保健だよりや健康診断を通じて健康意識の啓発は進んでいるが、児童が健康づくりを実践する姿は十分とは言えない。 ・休み時間の過ごし方について統一が図れておらず、改善の余地がある。	・外遊びの推奨や休み時間の過ごし方については全体で共通理解を図り、生活指導と連携して取組を進めていく。 ・健康診断や保健だよりの活用時に、学年の実態に応じた説明や啓発を行い、健康意識の定着と実践につなげていく。	B	家では、ゲームやテレビ、スマホの活用が増えているため、学校でもっと芝生やついじを利用した外遊びを推奨してほしい。また、家庭環境を整える取り組みもすすめていくと良い。	健康のために学校では、外遊びの水量をする。そのためには、学校全体での共通理解を図り、生活指導との連携に努めていく。また、家庭でのゲームやスマホの使い方については、保健だよりや健康診断、眼科検診などの時に学年の実態に応じた説明や啓発に努める。
				B	36%	50%	75%					
				C	10%	3%	6%					
				D	1%	3%	0%					
				E	0%	3%	0%					
				平均								
			自分の命を守り、他者の命を大切にするための安全教育を推進し、危険から回避する能力を養う。	A	70%	32%	44%	・登下校時の安全な歩行や通学路の理解について課題がみられ、安全面での不安が残っている。 ・避難訓練は充実しており実施されているが、より多様な事態を想定した改善と新たな視点での対応も必要である。	・生活指導の講話や全校朝会などで通学路や安全意識について繰り返し指導を行っていく。 ・気づいたことを職員間で迅速に情報共有し、必要に応じて安全指導や対応方法の改善を継続的に図っていく。	B	登下校時の歩き方や自転車の乗り方など、安全面への継続的な指導が必要と感じる。危険な場所を自分たちで考える授業は大切であり、今後も続けてほしい。安全教育は学校だけでなく家庭や地域でも連携して行うことが重要だと思う。	登下校時の歩行や自転車の乗り方など、安全に関する基本的な行動について継続的に指導していく。また、危険箇所を自ら考える学習や避難行動の指導を通して、自分や他者の命を守る意識を高めていく。家庭や地域とも連携し、安全教育の充実に努める。
				B	27%	53%	56%					
				C	2%	11%	0%					
				D	1%	1%	0%					
				E	0%	3%	0%					
				平均								
			校庭の芝生とついじを活用した日常的な健康・体力づくりを推進し、情緒の安定を図り、楽しく明るい生活を営む態度を養う。	A	67%	36%	25%	・校庭の芝生やついじを活用し、健康づくりへの取組は進んでいるが、季節による気候の影響で外遊びができない日が多く、特に高学年女子の遊び方への配慮も必要となっている。	・外遊びの声かけを継続していきながら、室内遊びのルールの再周知や、外で遊べない日には体育館や多目的室の活用を進め、年間を通じて体力づくりができる環境を整えていく。	B	一小のシンボルでもある、ついじや芝生をもっと活用し楽しい運動を通じて、健康のために運動を促していくと良いと思う。	・外遊びの声掛け、室内遊びの共通ルールの徹底、外で遊べない日の体育館や多目的室の活用方法などの環境を整えることに努める。
				B	22%	48%	69%					
				C	10%	6%	6%					
				D	1%	3%	0%					
				E	0%	7%	0%					
				平均								
家庭・地域等との連携	保護者や地域と連携・協力し愛される学校づくり	家庭、地域、関係諸機関と連携した教育の推進	学校行事や学校公開日の充実を図るとともに、ホームページを活用した情報の発信に努め、児童、保護者及び地域の期待と信頼に応える学校づくりを推進する。	A	32%	26%	31%	・学校行事や情報発信には一定の工夫が見られ、ホームページの改善による保護者の評価も高まってきている。 ・情報の伝達手段が多様化し、紙媒体では伝わりにくい現状がある一方、ホームページをあまり活用しない家庭もあるため、どのように周知していくかが課題となっている。	・ホームページや配信メールなどICTを活用した情報発信を継続しつつ、紙媒体や連絡帳など家庭の実情に合わせた方法も併用していく。 ・また、学校便りやホームページ更新時に通知を発信するなど、家庭・地域への情報発信力の強化に努めていく。	B	学校便りやホームページなどを通じて、児童の様子や学校の情報が適切に発信されていると感じられる。インターネット発信と紙媒体の併用が、それぞれの家庭や地域の事情に応じた情報伝達につながっているように思われる。地域とのつながりを意識した発信も今後引き続き重要だと感じる。	今後もホームページや配信メールなどICTを活用した情報発信を進めつつ、各家庭や地域の実情に合わせて紙媒体との併用にも配慮していく。学校便りやホームページの更新時には通知などを活用し、地域や保護者とのつながりや信頼に応えられるよう努めていく。
				B	40%	53%	50%					
				C	20%	17%	13%					
				D	8%	4%	6%					
				E	0%	0%	0%					
				平均								
			青梅学の充実をはかったり、地域の環境・自然・文化及び人材を生かした創意ある教育活動を推進したり、郷土や地域を愛する児童の育成を図る。	A	47%	55%	31%	・地域の多様な人材を活用し、環境・自然・文化および人材を生かした創意ある教育活動を実施することができた。 ・各学年での単発の学びではなく、系統立てた学びができるよう、教育課程を見直していく。	・地域の多様な人材が、各学年での単発の活動にならないよう、他学年での学習でも声を掛ける選択肢が増えるように、データを蓄積していくファイルを作り、学年間ではなく、学校全員が見える場所での引継ぎを行っていく。	A	青梅学や地域学習を通して、児童が地域の伝統行事や文化に親しみ、様々な体験活動を行っていることがうかがえる。身近な地域にもまだ知らないことが多いと感じる声もあり、今後も青梅の自然や文化、産業などに触れられる学びの継続が期待している。	地域の多様な人材や資源を学年間で共有しやすいよう、データを整理して引き継ぎを行っていく。青梅の祭りや自然、文化、産業などに関わる体験を今後も大切にし、児童が地域へ関心をもち、地域とともに学ぶ機会を広げていけるように努める。
				B	41%	33%	50%					
				C	10%	6%	19%					
				D	2%	0%	0%					
				E	0%	6%	0%					
				平均								
			「家庭学習の手引き」を活用し、家庭における基本的な生活習慣や学習習慣を身に付けさせ、自ら学び続ける力を育てる。	A	49%	25%	19%	・家庭学習に関しては課題が見られた。宿題の分量や行い方等も学年で統一感をもたせる必要がある。 ・主体的に学ぶ姿勢を育む観点からも自ら学び続ける力を高めめる方法を検討していく。	・青梅市から提示されている「家庭学習の手引き」を活用し、校内または学年全体で統一感をもって取り組む。 ・学習習慣や、主体的に学ぶ姿勢を高めるための取組として自主学習ノート等を検討していく。	B	家庭学習は家庭によって大きな差がある。与えられた課題だけでなく、自主学習ノート等を活用した主体的な取組があると良い。	青梅市から提示されている「家庭学習の手引き」を活用し、校内または学年全体で統一感をもって取り組む。また、学年での方向性を年度当初の保護者会や学校だよりの学年欄等で呼びかけ過程と連携して進めていく。主体的に学ぶ姿勢を高めるための取組として自主学習ノート等を検討していく。
				B	37%	44%	50%					
				C	10%	18%	25%					
				D	4%	10%	6%					
				E	0%	3%	0%					
				平均								